

未来につながる美術科授業の在り方を考える

－感じ取る，創造する喜びを味わう授業の実践を通して－

栗原 理恵

1 研究テーマ設定の趣旨

平成19年度までの本校共同研究では、「コミュニケーション」に着目した研究を進め、美術科においても、研究テーマ「美術を愛好していこうとする生徒をはぐくむ美術科学習指導の在り方－ともに高め合うコミュニケーション活動をとおして－」のもと、互いの制作過程を見つめ合い切磋琢磨していく学習過程の工夫により、生徒の中に、より美術を愛好していこうとする姿勢が見られるようになるという成果が得られた。

美術科の課題としては、①話し合い活動を円滑に進めるために必要な基礎的・基本的な知識が不足している段階や生徒自身の伝えたい思いが育っていない段階では、話し合いが深まりにくく、授業の目標をおおむね達成したとは言えなかったこと②美術の授業は楽しいけれど価値を見い出せずにいる生徒に向けて、形・色などの造形の諸要素を用いてイメージを伝え合い感じ取る過程で、自分自身の内面を深く見つめたり表現者の意図や思いに気付いたりする体験の充実をより一層図ること、の2点が残った。また、生徒の実態から、既習事項や感じたことをもとに試行錯誤しながら理解を深めるより、イメージを簡単に具現化する方法や鑑賞作品の価値、作者の表現の意図を教師や友人に尋ねて手軽に知りたがる傾向がやや見られることから、題材の選択や学習目標が生徒の実態に合わない部分があるのではないかということが考えられる。

そこで、昨年度より「未来につながる美術科授業の在り方を考える－感じ取る，創造する喜びを味わう授業の実践を通して」を研究テーマに設定し、授業の改善，既習事項を生かして制作・鑑賞にあたる小・中連携の視点から研究を進めている。本年度は美術科の大切な目標の一つである「感性を豊かにし」「豊かな情操を養う」ことに重点をおき、絵画や彫刻，そして鑑賞の部分についての学習過程について検証した。

2 研究計画と研究仮説

1 研究計画

一年次	(1) 研究仮説 (2) 新学習指導要領に対応した、美術科における習得と活用の在り方について
二年次	(1) 小学校・中学校間での、創造する喜びを味わう「デザイン・工芸」分野の系統的な学習課程の検証 (2) 感じ取る喜びを味わう「鑑賞」の学習活動の在り方について
三年次	(1) 小学校・中学校間での「絵や彫刻」分野での系統的な学習課程の検証 (2) 研究の成果と新たな課題

2 本校美術科の過去の研究テーマの変遷より

美術科における今回の指導要領の改訂では大きな変化はあまり見られず、前学習指導要領の趣旨をより深く理解した上で、現代の子どもたちに本当に必要な美術科学習の指導を促すものだと考えられる。ではそれは何だろうか。近年の本校美術科の研究テーマを振り返り考えたい。

(1) 平成5年度(1993年)～平成7年度(1995年)

研究主題 「生き生きと表現する生徒を育成する指導と評価

－新教育課程の実践を通して－

美術科研究テーマ「創造的に表現することに喜びを感じる生徒の育成」

平成5年度より中学校学習指導要領が全面施行となることに向けて、新しい世紀に向けて世界に目を広げ、自ら学ぶ意欲と主体的に社会に社会の変化に対応できる心豊かな人間の育成を目指し、本校教育課程において求められる学力、すなわち関心・意欲・態度を軸とした思考力・判断力・表現力、特にそのうち表現力に焦点をおいて、これを育成する手立て及びその評価のあり方を実践を通して明らかにしようとした。

(2) 平成8年度(1996年)

研究主題 「新学力観に立った教科指導の在り方と評価」

美術科研究テーマ「意欲的に自己の表現をつい窮す幼とする生徒の育成」

美術科では課題解決的な学習が生徒個人の活動の中で常に行われており、新学習指導要領が目指す方向を先取りし、実践していた教科と言えることにふれ、意欲を喚起するために年間指導計画を改善し、美術による教育全体において課題解決的な学習の場面を多く取り入れることで「自己教育力」が高められ、意欲的に「個性的で創造的」な自己の表現を追求しようとする生徒の育成ができるのではないかと考えた。

(3) 平成9年度(1997年)

研究主題 「生きる力を高める教育課程の編成と実践

－総合学習教科『学び方』と各教科の特性を生かして－

美術科研究テーマ「学ぶ力育てる美術科の指導

－総合学習教科『学び方』との関連を通して－

平成7年度から文部省の研究開発学校の指定を受け、総合学習教科「学び方」を教育課程の中に位置づけ、各教科の学習の基礎となる言語、コミュニケーション、メディアなどに関わる能力を「健康」「環境」という内容領域を、段階的に学習できるように活動や単元を構成し試行した。それによって可能となる美術教育の新しい方向性や考え方を考えた。

(4) 平成10年度(1998年)～平成13年度(2001年)

研究主題 「生きる力を高める教育課程の編成と実践

－各教科の特性を生かして－

美術科研究テーマ「豊かな感性と生きる力をはぐくむ生徒の育成」

「豊かな感性と主体的に生きる力を培う生徒の育成」

それまでの大量活高度な内容の学習及び暗記、早く正確に正しい答えを導き出す技術等に傾注してきた反省をふまえて学習指導要領が改訂された。そして、我々日本人が日々の暮らしの中で大切に、育んできた正義感・倫理観や思いやりの心などの豊かな人間性をめぐる取り組みを社会全体で見なおし、実行していくためにも「生きる力の育成」の重要性が言われ、「総合的な学習の時間」の導入がなされた。それらを受け、感性を人間形成と諸学の基盤となる資質と仮定した上で、中学校教育全体の中で担うべき美術(科)の役割について研究を進めた。

(5) 平成14年度(2002年)～平成16年度(2004年)

研究主題 「『確かな学力』を身につけさせる学習指導の在り方

－学ぶ楽しさを実感できる授業への改善を通して－

美術科研究テーマ「主体的に創造する生徒を培う美術科学習指導のあり方

－美術への自信をもたせる授業への改善を通して－

「主体的に創造する生徒を培う美術科学習指導のあり方

－『美術の生活化』を図る授業への改善を通して－

主体的に創造する生徒を培うために、生徒が「学ぶ楽しさ」すなわち「美術を学ぶ喜び」を実感しながら美術学習の意義価値を見出すことをねらいとした学習指導のあり方を検証した。そのために、美術の学習を通して培われた、他者の批評を取り入れることによって、自分をより高めていこうとする態度や、造形的なとらえ方や豊かな考え方、自ら課題を設定し解決する力などの資質や能力が、教科や領域を越え、学校内外や将来の生活で生きてはたらきくことを実感する、すなわち「美術の生活化」をキーワードとして研究を進めてきた。

(6) 平成17年度(2005年)～平成19年度(2007年)

研究主題 「ともに学ぶよさをいかした学習指導の在り方

－コミュニケーションする力の育成と活用－

美術科研究テーマ「美術を愛好していこうとする生徒をはぐくむ美術科学習指導の

在り方－ともに高め合うコミュニケーション活動をとおして－

学習状況の観察から、自分らしさを追究するあまり、級友が発想したことや感じ取ったことを尊重しないというもの、すなわち自己中心的であるということと、自分の発想や感じたことに自信がもてないために、教師や級友に確認しながら学習に取り組む、すなわち他者への依存が強いという両極端な生徒の姿勢が見られるようになったこと等の課題が見られるようになり、それを受けて、互いに学び合い、ともに高め合うコミュニケーション活動を学習活動の中に意図的に取り入れていく研究を行った。

振り返ると、今回の新学習指導要領の改訂にあたって重要とされた、

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①「生きる力」という理念の共有②基礎的・基本的な知識・技能の習得③思考力・判断力・表現力等の育成④確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保⑤学習意欲の向上や学習習慣の確立⑥豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実 |
|--|

の中の、①～③及び⑤・⑥に関する研究テーマを掲げ、研究を進めてきたと言えるのではないだろうか。

また、平成20年度から取り上げている「活用型学習活動」の実践についてだが、美術科では「課題解決型学習」「自己課題の決定」といった表現ではあるが、既習の知識・技能を主体的に選択し(活用して)課題解決を図る学習活動を通して教科の目標を達成させることが多く、その意味では美術科の学習活動はほとんどが活用型学習活動と言え、近年の美術科で行われている学習活動の在り方を今一度考えることで、今の時代に合った活用型学習活動を取り入れた授業実践の提案ができるのではないかと考えた。

3 研究仮説

生徒の実態から、図画・工作科で製作してきたことと美術科で制作・鑑賞することの間に具体的な関連性を見いだせず、中学校美術科の学習は図画・工作に比べて難しいと感じているようすが見受けられる。小・中学校間の連携を進め、過去の製作を振り返りながら(習得した学習内容、基礎・基本をふり返る導入)中学校での主体的な作品制作に取り組ませる(活用型学習活動を取り入れた授業展開)ことで、自信をもって表現しようとする

る意欲が増し、自分が感じたことをもとに積極的に表現活動に参加する態度形成につながるのではないかと。また、鑑賞においては、作品の造形の諸要素に注目させることで、自分の見方をもって深く感じ取ることができるようになるのではないだろうか。

3 研究内容

1 美術科における、活用に重点をおいた授業のとらえ方

美術科では、基礎・基本の部分の習得のためには、活用的な学習過程（作品制作や鑑賞会での話し合い活動など）が欠かせないであろう。それには主体的によりよい表現のための方法を吟味し選択する、主体的に鑑賞作品から作者の意図や感じ取りを行うなど、生徒の主体性が関わってくる。主体的な活動を促すための、生徒に示す視点を、本年度は新学習指導要領の共通事項にある「形・色彩・材料・光」とし、「形・色彩・材料・光」などがもたらすイメージを感じ取ったり、主体的に意図をもって表現したりする力を基礎的・基本的な力として仮定し、以下に、本年度の実践例を挙げる。

なお新学習指導要領の中の「共通事項」として挙げられているのは、以下の通りである。

「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

2 本年度の実践

(1) 手立ての工夫

○制作の途中に、鑑賞を取り入れる（相互評価を通して自己の価値意識を認識する）

絵画

3年生「私・わたし・僕・自分－自画像－」

作者の表現意図を考えながら鑑賞し合い、アドバイスする活動

○形・色彩・材料・光という視点をもって制作・鑑賞することを徹底する

デザイン・工芸

2年生「My favorite chair－お気に入りのいす」

発想・構想の段階での意識付け

○自分がつくりたい作品への意識だけでなく見る人・使う人の視点を意識させる

デザイン

1年生「名刺のデザイン」

レイアウトによる印象の違いを鑑賞し合う活動

(2) 題材の工夫

○興味・関心を引く題材の開発→ 美術への意欲の向上→ 美術を愛好する態度化

工芸

3年生「祈りの造形－心のお守り－」

低融点合金（ピューター）を材料にした、お守りの制作

○じっくり取り組まないと身につかない技能を育てる題材と、用具・材料の特性を知った上で、選択し、手早く制作できる題材を織り交ぜて設定

デザイン

1年生「スケッチブックの表紙のデザイン」

名刺の制作・色面構成の授業を経て、様々な材料を用いてスケッチブックの表紙をデザインする

○日常生活に還元でき、かつ日常生活で身につけたことを生かす題材

工芸

2年生「炎と熱の造形－使いやすい器をつくろう－」

日常生活の中で使用している器の形を意識して制作・鑑賞する

(3) 美術科における活用型学習活動を取り入れた授業の具体例～校内授業研究会より

実施日時 平成21年2月4日 実施学年 第1学年

1 題材名 「光は友達 表現する光」

2 題材の目標

- ・ 日常を演出する光の効果や美しさ、魅力を主体的に味わおうとする。(関心・意欲・態度)
- ・ 身近な材料をリサイクルするなどして利用し、今まで感じ取ってこなかった光の美しさに気付きながら、自分らしい美意識や表現意図をもって新しい「光」を演出する。
(発想・構想の能力)
- ・ 意図に応じた材料や用具の生かし方を考え、創意工夫して表現する。(創造的な技能)
- ・ 光を利用した作品の鑑賞を通して、作者の心情や意図と、表現の工夫、生活における美術のはたらきを感じ取る。
(鑑賞の能力)

3 題材設定の理由

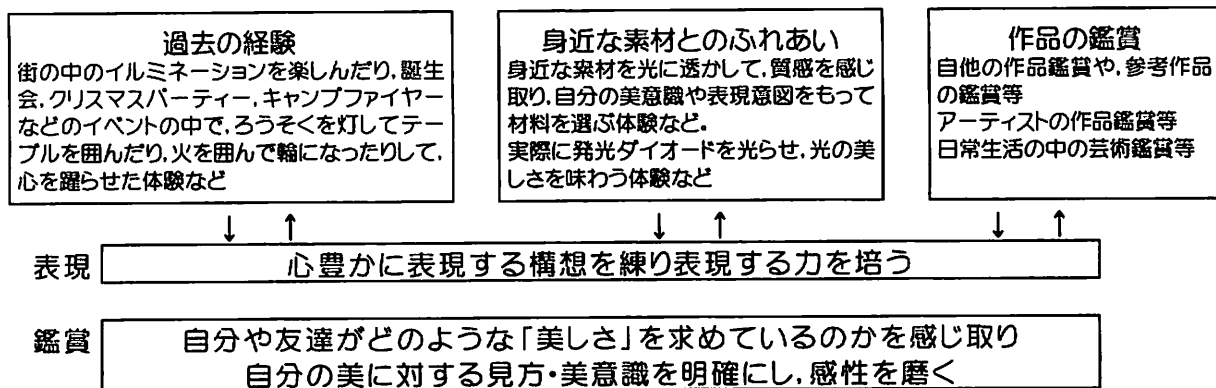
(1) 題材観

この題材では、今までに学んできたことを基に、発光ダイオードを光源とする小さな照明の作品制作を行うことで①日常の中に溢れる光に興味・関心をもたせること②自分や友人がどのような「形」「色彩」「材料」の「美しさ」を求めているのかを感じ取り、見方を明確にさせることを目標としている。

第1学年では、「名刺のデザイン」「身近にある自然の美しさを発見しよう！(植物のスケッチ)」「美味しい！を伝えよう(果物・野菜、乾物等、食べ物のスケッチ)」を通じて、「形」(文字の形・配置の学習)、「配色」(色彩の学習)、「材料」(色鉛筆と絵の具などの用具の違いや、画用紙と和紙とケント紙のような紙質による表現の違い)の三つの造形の諸要素に関する学習を行ってきた。この照明の制作を通して、さらに理解が深まることをねらいとする。

(2) 研究テーマとの関連

日常生活の中で、街のイルミネーションなどに心を躍らせた体験などから発想し、また身近な素材を光に透かして質感を感じ取り、自分の美意識や表現意図をもって材料を選ぶことで、心豊かに表現する構想を練り表現する力を培うことをねらいとする。さらに、自他の作品を鑑賞し合うことで、自分や友人がどのような「美しさ」を求めているのかを感じ取り、見方を明確にさせ、主体的に制作に取り組ませる。



※ 中教審答申における活用型学習活動例との関連

cf ①体験から感じ取ったことを表現→発想したイメージをもとに作品を構想・制作

例) 毛糸から感じ取った柔らかさをもとに柔らかい光の照明を発想し構想を練り制作する。自分らしさを伝えられる形を考え、適した材料を選択し、制作する。

※ 活用させたい力

・材料の性質やそれらがもたらす感情を理解すること（学習指導要領）

→材料はどのような性質で、見る人はどのような感情を受けるかを理解すること。

（「色や形の性質や、それらがもたらす感情の理解」も生徒は活用すると思われるが、本実践では特に、生徒が「材料」に関する理解を活用することをねらいとする。）

(3) 指導上の留意点

○表現したい、伝えたい内容を生徒が明確にするために、何を感じ取っているのかを実感するための体験的学習を取り入れること

⇒素材の面白さを今までにない視点（今回は「光に透かす」という視点）で楽しむ題材を設定し、五感をはたらきかせて感じ取ることから発想を引き出す、過去に使用したことの新しい新たな材料を取り入れ、既知のものと比較させながら印象を感じ取らせる、多くの「素材」の中からイメージに合った「材料」を選択させることで、形や色に比べて意識しにくかった材料から受ける感情についても意識させるなど

○意図をもって表現し、鑑賞活動に主体的に関わっていくための基礎・基本を身につけさせる

⇒図画工作の授業で扱った学習内容や日常生活の中で得た感覚や体験から作品制作のアイデアが出てくるよう、身近な用具・材料、技法を生かせる題材にする、修学以前、あるいは小学校の図画・工作科で得てきた知識や技能を、美術科の学習の中で整理し、活用できる題材を設定する（「校種間連携」による学びの連続性）など

○目標に到達したと考えた時点で制作や鑑賞活動を止めてしまう生徒に、学びの価値を感じさせる

⇒自他の作品を鑑賞し合い、自分や友人がどのような「美しさ」を求めているのかを感じ取り、自分の見方を明確にさせることで、そのイメージをよりよく伝えられる表現を考えさせるなど

4 学習計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	①学習の意義と内容を知る。	・身近な光に興味をもち、どのような素材を材料にすると、どのような光が生まれるか、実際に素材にふれながら感じ取らせ、光るアートへの興味・関心を引き出す。	・日常を演出する光の効果や美しさ、魅力を主体的に味わおうとしているか。 関発言・ワークシート
2	②（冬休み）材料収集を行う。	・『光』をどのように通す素材か「通さない素材か」という視点から身の回りのものの質感の違いに気づかせる。	・身近な材料をリサイクルするなどして利用し、今まで感じ取ってこなかった光の美しさに気づきながら、自分らしい美意識や表現意図をもって新しい「光」を演出しているか。
3	③それぞれがもってきた素材がどのように光を通すか検討し作品制作に利用する材料を決め、見通しをもつ。	・リサイクル品を利用させることで身の回りのものをいつもとは違った視点から見る力を培う。	発 sketchesブック
4	④表現の意図に応じて材料や用具を選択し、その生かし方を考えて制作する。	・友達のアドバイスを参考にしながら、自分の見方で、使用する材料と制作の手順を決定し、制作に入ること	作品・ワークシート
5		で、「自分の考え」をもたせる。	・意図に応じた材料や用具の生かし方を考え、創意工夫して表現しているか。技作品・ワークシート
		・よさや美しさを言葉で伝え合うことで、自分が感じた「自分の感情」「作者の心情・制作の意図」を明確にイメージさせる。	・光を利用した作品の鑑賞を通して、作者の心情や意図と、表現の工夫、生活における美術のはたらきを

6	<p>⑤ 友達の作品を鑑賞し、よさや美しさを味わう。</p> <p>⑥ 学んだことをまとめる。</p>	<p>・ 試行錯誤しながら自分らしい美意識や表現意図をもって表現させる。</p> <p>・ 自他の感じ方や見方の比較により、その多様性に気付かせ、自分にとってのよさや美しさについての見方を深めさせる。</p> <p>・ 生涯にわたって生活に生きる鑑賞の力の必要性に気付かせる。</p> <p>・ 学習のまとめを記述させる。</p>	<p>感じ取っているか 鑑 <input type="checkbox"/> ワークシート <input type="checkbox"/></p>
---	---	---	--

5 本時の指導

(1) 題 目 「飾る・変わる 光の演出」

(2) 目 標

- ・ 身近な材料をリサイクルするなどして利用し、今まで感じ取ってこなかった光の美しさに気付きながら自分らしい美意識や表現意図をもって「光」を演出する。（発想・構想の能力）
- ・ 意図に応じた材料や用具の生かし方を考え、創意工夫して表現する。（創造的な技能）

(3) 準 備

- －指導者－
 - ・ 鑑賞対象（①生徒作品②ライトを含む教師準備品）
 - ・ 用具（はさみ、カッター、のり、木工用ボンド、グルーガン、強力接着剤）
 - ・ 材料（針金、画用紙、透明ジェル）
- －生 徒－
 - ・ 材料（身近なものを利用）
 - ・ 用具（鉛筆・色鉛筆・絵の具類）
 - ・ スケッチブック
 - ・ 教科書
 - ・ 資料集

(4) 展開

★研究との関連

学習活動	教師の具体的な指導内容と支援	準 備
<p>1 学習の意義と内容を知る。</p> <p>2 全員の作品を中央に集め、展示し、よさや美しさ、直したい点を感じ取る。</p> <p>3 制作する。</p> <p>① イメージを明確にする。</p> <p>② 見通しをもって制作に臨む。</p> <p>③ 表現の意図に応じて材料や用具を選択し、その生かし方を考えて制作する。</p> <p>④ 後片付けを行う。</p> <p>4 本時の学習を振り返り、まとめる。</p> <p>5 次時の学習内容を知る。</p>	<p>・ 学習の意義や内容を知らせることにより、学習の見通しをもたせる。</p> <p>・ 場の空気を変えるという、美術作品の特徴の一つを感じさせる。</p> <p>・ 自他の作品を鑑賞し、「形」「色彩」「材料」から受ける感情を感じ取らせ、作品制作の仕上げに生かすよう示唆する。または、2作品目を制作させる。</p> <p>★ 完成に近づいた生徒には見る人の視点を考えさせ、よりイメージが伝わるような造形的な工夫をさせる。</p> <p>★ 素材が違うが同じ色のもの、素材に工夫があるものを見せて比較させるなど、参考作品を利用する。</p> <p>【造形的な好み】→【多くの人が美しいと感じる部分】</p> <p>★ イメージが具体的にならず行き詰まっている生徒には、曖昧にもっているアイディアが明確になるように、造形の諸要素についての話を交えて対話する。</p> <p>★ イメージがまったくわからない生徒には、作品の一部分に注目させ、思い入れを込めて細部を仕上げたり、造形的な工夫を入れたりするよう示唆する。</p> <p>・ 自己評価を書かせることで、目標を達成したかを明確にし、来週の制作の授業へと意識をつなげさせる。</p> <p>・ 次時の授業で、制作を終了させる予定であることを知らせる。</p>	<p>自己評価表</p> <p>参考作品と全員の制作途中の作品</p> <p>用具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はさみ ・ のり ・ 木工用ボンド ・ グルーガン ・ 強力接着剤 <p>材料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 針金 ・ 画用紙 ・ 透明ジェル <p>自己評価表</p>

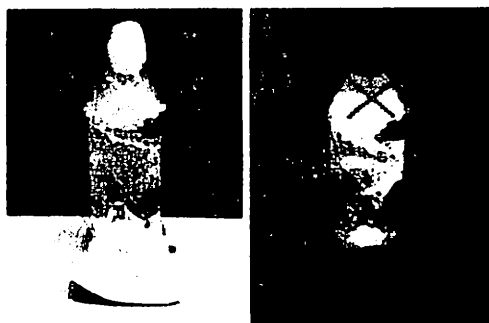
6 評価

評価の観点	評 価 規 準	場面と方法
発想・構想の能力	身近な材料をリサイクルするなどして利用し、今まで感じ取ってこなかった光の美しさに気付きながら、自分らしい美意識や表現意図をもって新しい「光」を演出しているか。	学習活動3 スケッチブック・作品 自己評価表
創造的な技能	表現の意図に応じて材料や用具を選択し、その生かし方を考えて表現しているか。	学習活動3 作品・自己評価表

※ 授業の記録より

活用型学習活動の場面 具体的な生徒のようす	教師の手立て
<p>・学習活動3 前時までに発想したことをもとに、用具・材料を選択し、その特徴を生かして制作する。</p> <p>（美術科では、制作において必要な学力を、「感じたことからイメージを発想し、表現する力」と呼ぶが、ここには、思考、判断、表現が一体となって含まれており、これらの一つを取り出すことは難しい。）</p> <p>●他の生徒の作品からヒントを得て、作業時間にはいと早速熱心に改善に取り組んでいる。</p> <p>「石を安定させて光を通したいんだよね。」</p> <p>光をもっと通したい、もっと色を出したいなどイメージから具体的な改善方法を見つけている。</p> <p>インタビューから</p> <p>●先生が見せてくれた古い教科書にヒントを得て、前から使おうと思っていた和紙と合わせ、和風のライトをつくらうと考えていたようだ。</p>	<p>（題材の導入・オリエンテーション）</p> <p>・参考作品を見せ、素材による印象の違いについて鑑賞し合う。（授業前）</p> <p>・具体的な用具、材料の特徴について自己評価カードに個別にアドバイスを行っておく。</p> <p>（導入時）</p> <p>・他の生徒の作品を見せることによって、自分の気づいていない、発想とそれを形にする技法に気づかせる。</p> <p>●・ペットボトルにろう</p> <p>・ハートの作品（色）</p> <p>・他の人が使っている身の周りにある自然物を見せている。</p> <p>（活用型学習場面・学習活動3）</p> <p>・試行錯誤している生徒に対して、新たな発想を構想化するときのアドバイスをする。</p> <p>・構想や制作が行き詰まっている生徒に対して、生徒が曖昧にもっているアイディアが明確になるように、対話する（尋ねたり、生徒の話の聞いたり、まとめたりする）。</p> <p>●T「見ているといろんな気持ちにさせますね。」</p> <p>↓</p> <p>S「どうやってやるの？」</p> <p>S「これほしい」</p> <p>●1学期の学習を思い起こしてみよう。何かに気をつけて取り組みましたね。後で、スケッチブックを確認してみてください。</p>

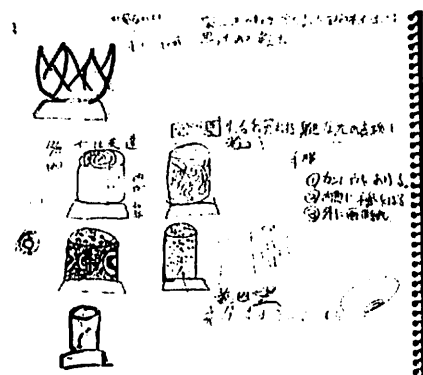
	活用型学習活動が有効であったと思われる点	課題点
観察者の考察	<p><観察の視点></p> <p>・過去に学んだことを生かしているか。</p> <p>例…色を変えることで見る人の感じるイメージが変わることを意識している。</p> <p>・材料から感じた感情を意識して制作を行っているか。</p> <p>例…リラックスした、優しい、クール</p> <p>●材料を使ってイメージしたことを作品にしていた。</p> <p>・ビー玉を泡と考えていた。</p> <p>・ろうを使って海中と考えていた。</p> <p>・光の反射を考えていた。</p> <p>●和紙が優しく柔らかい印象を与えることを学び、作品に生かしていた。</p> <p>●針金を与えるキビキビとした印象を考えながら作品に生かしていた。</p> <p>●和紙を使い、それを通して光を柔らかく、きれいに見せる工夫をしていた。</p> <p>見せる→穴を開ける角度を考える</p> <p>アルミファイルを使い、光の反射を工夫</p> <p>●柔らかい光をつくるために</p> <p>布で囲った点→セロハンを丸めた点→セロハンの量を変えていった点</p> <p>この一連の流れが段階を追って生かされてきたのではないかと感じた。</p> <p>●個人の活動が中心で思考が見えなかったので質問してみた。</p> <p>Q.「感情って何？」</p> <p>A.「それを見て落ち着いた、和んだり感じたこと」</p> <p>「自分とか見た相手がどういう風に思うか、ということ」</p> <p>「柔らかい感じ、とか」</p> <p>と答えていたので意識をしているのだろう。</p>	<p>●作品を見ただけでは今までに学んだことを生かしているかが難しい教科であると思う。</p> <p>●自己評価表を用いた点は素晴らしいと思う。</p> <p>そこで「～を生かして工夫してみた点」などを列挙して「～作品になってよかった」という自己評価が書かれるように指導やワークシートの工夫がされると変容が一人ひとり分かりやすくなるのではないだろうか。</p> <p>●学習活動2で感情を共有できれば良かった。互いの交流がほしかった。</p> <p>●生徒が目指す感情はどこかにあるのか？もしかしたら材料のもたらす感情が分からずに作っていないか。</p>



生徒の発想

ライト→ キラキラ→ 材料自体、キラキラしたもの
を集める→ 自宅にあったビーズ、アルミホイル、
ビニル袋 + 直線的で透明度の高いペットボトル
を使用するアイデアを決定した

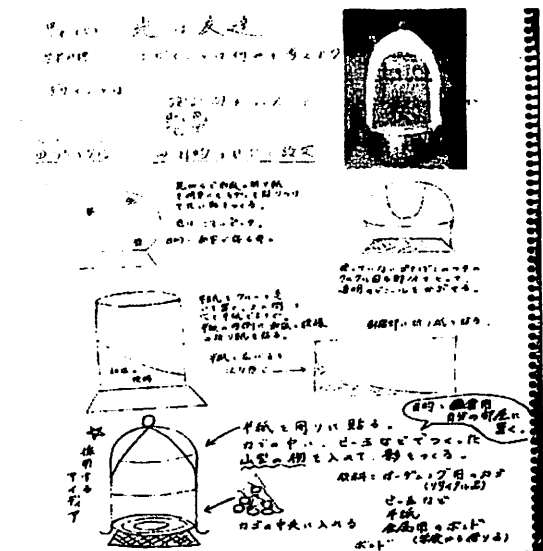
图 1 · 2 生徒作品



透明ろうそく ⇒



图 3 ~ 5 生徒作品



アイランド・リポートの反響、意見

- 1949年12月1日 (星期日)
• 1949年12月2日 (星期一)
• 1949年12月3日 (星期二)
• 1949年12月4日 (星期三)
• 1949年12月5日 (星期四)
• 1949年12月6日 (星期五)
• 1949年12月7日 (星期六)
• 1949年12月8日 (星期日)
• 1949年12月9日 (星期一)
• 1949年12月10日 (星期二)
• 1949年12月11日 (星期三)
• 1949年12月12日 (星期四)
• 1949年12月13日 (星期五)
• 1949年12月14日 (星期六)
• 1949年12月15日 (星期日)
• 1949年12月16日 (星期一)
• 1949年12月17日 (星期二)
• 1949年12月18日 (星期三)
• 1949年12月19日 (星期四)
• 1949年12月20日 (星期五)
• 1949年12月21日 (星期六)
• 1949年12月22日 (星期日)
• 1949年12月23日 (星期一)
• 1949年12月24日 (星期二)
• 1949年12月25日 (星期三)
• 1949年12月26日 (星期四)
• 1949年12月27日 (星期五)
• 1949年12月28日 (星期六)
• 1949年12月29日 (星期日)
• 1949年12月30日 (星期一)
• 1949年12月31日 (星期二)

～テイティング、自己決定、基準～

- ・ 便り、力ごの自筆がわかるかい 感じて嬉しいから
- ・ 自筆で書いたものに、半紙を貼る：4丁、5丁、それぞれ付くて 温かい感じの作品になることが出来ると思、だから。
- ・ どのみち付くて温かい作品が出来るから。

～つくり方、整理～

- ① カゴに半紙を貼る(入口を隠す)
- ② カゴの中に入れ、蓋をさす(カゴにつける)
- ③ できたらカゴの中に入れる。
- ④ 最後は、入口に半紙を貼る。終了。

图 5·7 生徒作品

アイディア決定の基準記述例

光は友誼を表現する光

・ 作画の心情や意図と表現の工夫を感じよう。

1 読者のキーワード

形

名

并

種

2 子-61 シヤ)- 102025外

(光は光を透過し、折反射をする
 ので不思議な光が下がる。
 光はよく反射すると幻想的に
 なる。
 不規則に動く物何れも。
 光の色・作・イメージが変わる。

■このページの★良案から得た情報をメモしよう

チーム「優勝」

角五ノ可ニハ寸ノ也
一ノハニノハ寸ノ

チーム 木村

あわなごで、反骨がたると
と独断になる。

7-4(力), 単位]

41717 差を通すところ
もろく使うとす
100/125

チーム(ハナスタ)

光と紙に限り、
和紙に使うと不
議になる。

図8 ワークシート

作品から感じたイメージについて話し合う↑

※ 生徒アンケートより

- ・一人が見て満足だけの作品にはしない。・相手の意見を聞いてみること
- ・もっと美術に関心をもつ。 (関心・意欲・態度に関すること)
- ・見て感動できる、自分にはないものを取り入れる。・友達の良いと思われるアイデアをどんどん取り入れていく。
- ・生活の何に必要か、何の目的か考える。・自分のアイデアと組み合わせ、友達の良いところを活用したい。 (発想・構想の能力に関すること)
- ・自分が伝えたいことを伝わるように表現する。・材料の選び方の工夫。 (創造的な技能に関すること)
- ・相手はどんな気持ちでつくったのであろうかということを考えながら鑑賞する。
- ・これまで自分になかった視点で見たり、鑑賞したり、表現する。・その人の個性が表れているところを見つけたい。
- ・相手に与える印象、なぜそうつくられたのか考えながら鑑賞する。・じっくり観察すること。 (鑑賞の能力に関すること)

4 今後の課題

本年度は研究の二年目として様々な実践を行った。習得・活用についても、生徒に造形の諸要素に関する視点をもたせ繰り返し授業の中で確認するようにすることで、生徒の意識の中に自分が「感じ取ったこと」を大切にしながら表現したり鑑賞したりするようが見られるようになったようである。理屈で考えるだけでなく、体感的に相手の想いを感じ取ったり理解したりすること、すなわち他者理解につながる重要な点だと考える。

しかし、昨年度の課題である美術を学ぶ価値とは具体的に何なのかという点についてさらに深い理解が必要であること、生徒の理解が深まる手立て、また生徒の理解を見取るときに教師自身がいろいろな視点から見取れるようになる必要があることが、課題として残っている。生徒自身は、様々な想いをもって作品を制作し、鑑賞活動を行っているが、整理がつかないために感じ取っていることを表現しきれない場合もあったからである。言葉で饒舌に表現できればよいわけではないが、感じたことや考えたことを友達と伝え合い、互いを高められる豊かな表現力を育成して行けたらと願う。

今後も、より主体的に取り組み、さらに深い見方を身につけられる生徒の育成を目指したい。美術科の大切な目標の一つである「感性を豊かにし」「豊かな情操を養う」点については引き続きポイントとして挙げ、表現と鑑賞の学習過程について検証し、3年間で美術科の全分野の学習過程についての提案を目指し、これからも研究を重ねていきたい。

<参考・引用文献>

- | | | | |
|------------------------------|-------------------|-------------|-------|
| 『美術・その精神と表現 1・2』 | 佐藤忠良編集責任 | 1982年 | 現代美術社 |
| 「中学校学習指導要領解説 美術編」 | | | |
| 「美術科教育の基礎知識」 | 宮脇 理 監修 | 2000年再刊 | 建帛社 |
| 「ベーシック造形技法―図画工作・美術の基礎的表現と鑑賞」 | 山口 喜雄, 天形 健, 宮脇 理 | 2006年 | 建帛社 |
| 「中学校学習指導要領解説 美術編」 | | 2008年 | 文部科学省 |
| 「小学校学習指導要領解説 図画工作編」 | | 2008年 | 文部科学省 |
| 「平成20年改訂 中学校教育課程講座 美術」 | 福本謹一, 水島尚喜 | 2009年 | ぎょうせい |
| 「宇都宮大学教育学部附属中学校 公開研究発表会発表要項」 | | 1993年～2008年 | |